

サンフレッチェ広島 の 歴史と現状



平成25年7月
株式会社サンフレッチェ広島

サンフレッチェ広島 の 歴史及び地域貢献について

設立の目的

Jリーグの理念・活動方針である、

- ・日本サッカーの水準向上およびサッカーの普及促進
 - ・豊かなスポーツ文化の振興および国民の心身の健全な発達への寄与
 - ・国際社会における交流および親善への貢献
- に基づき、

広島サッカー競技レベルの向上

「サッカー王国 広島」の復活

中国地方全域にわたるスポーツ文化の活性化に寄与する

地域と地域、人と人との交流を生み、地域社会の活性化に貢献する

の4つを目的として設立されました。

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

設立の経緯・沿革

西暦	沿革	補足
1938年	東洋工業蹴球部創部	戦前、広島は埼玉、静岡と共に「サッカー御三家」と呼ばれる日本サッカーの先進地
1949年	実業団チームとして初めて天皇杯出場	
1954年	実業団チームとして初めて天皇杯決勝進出	結果は準優勝だが、第4延長戦に及ぶ死闘で、日本サッカー史に残る名勝負
1956年	全日本実業団サッカー選手権大会初優勝	この頃から市内の小中学校へ指導へ出かけるようになり、この時指導された選手が1960年代の黄金期を支えるようになる
1962年	国体優勝・全国実業団サッカー選手権大会優勝	
1965年	日本サッカーリーグ(JSL)発足、初優勝、天皇杯初優勝	発足時8チームのうちの4チームが広島県出身の監督、また広島県出身のJSL登録選手も43人で最多(2位は埼玉県出身の22人)と「広島サッカーの時代」といわれる
1966年	JSL優勝	第1回大会から2回大会まで、23連勝の記録
1967年	JSL優勝、天皇杯優勝	この頃のメンバーの多くが日本代表に選出され、メキシコ五輪銅メダル獲得に貢献
1968年	JSL優勝	4連覇はJSL連続優勝回数記録
1969年	天皇杯優勝、アジアクラブ選手権3位	アジアクラブ選手権は、現アジアチャンピオンズリーグの前身 日本勢として初出場
1970年	JSL優勝、天皇杯準優勝	優勝回数5回はJSL最高優勝回数記録
1971年	東洋工業サッカー部に名称変更	
1981年	マツダスポーツクラブ東洋工業サッカー部に名称変更	
1984年	マツダスポーツクラブサッカー部に名称変更	後の日本サッカーに大きな影響を与えた、元日本代表監督ハンス・オフト氏招聘
1986年	マツダサッカークラブに名称変更	
1988年		日本サッカー協会内にプロリーグ検討委員会設置
1990年		プロリーグ参加条件決定
1991年	プロリーグ参加表明	プロリーグ設立に向けた地域バランスを考慮した参加要請と、県サッカー協会会長をはじめ、関係者、市民による参加要請運動を受け、参加を表明
1992年	マツダSCを母体として、サンフレッチェ広島誕生	

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

会社概要

■会社概要

資本金:2億2,030万500円

売上高:26億7,649万円(2012年1月期) 詳細後述

■役員一覧

会長	久保 允善					
代表取締役社長	小谷野 薫					
取締役	小田 誠	高田 健(非常勤)	黒沢 幸治(非常勤)	迫谷 章(非常勤)	塚本 誠(非常勤)	佐藤 隆吉(非常勤)
	及川 享(非常勤)	畠 由紀男(非常勤)	岡谷 義則(非常勤)	神田 一成(非常勤)	石崎 信三(非常勤)	中村 治(非常勤)
	大下 龍介(非常勤)	木原 和由(非常勤)	倉本 勇治(非常勤)	内海 針治(非常勤)	山本 浩(非常勤)	
監査役	河野 泰二	富永 健三(非常勤)	碓氷 芳雄(非常勤)			

■株主一覧(50音順)

安芸高田市	株式会社アンフィニ広島	株式会社石崎本店	株式会社イズミ	株式会社インターソフト	株式会社ウッドワン
株式会社エディオン	株式会社大野石油店	買茂鶴酒造株式会社	カルビー株式会社	株式会社北川鉄工所	株式会社共立
株式会社熊平製作所	コカ・コーラウエスト株式会社	株式会社サイエンス	株式会社サタケ	佐藤汽船株式会社	山陽木材株式会社
瀬戸内海汽船株式会社	株式会社そごう・西武	株式会社ソルコム	株式会社ダイクレ	大和重工株式会社	チチヤス株式会社
中国醸造株式会社	株式会社中国新聞社	中国電力株式会社	株式会社中国博報堂	株式会社中国放送	株式会社中電工
ツネイシホールディングス株式会社 常石造船カンパニー	デルタ工業株式会社	株式会社テレビ新広島	株式会社電通西日本	株式会社天満屋	ドリームベッド株式会社
株式会社長沼電機社	西川ゴム工業株式会社	有限会社ニシヒロ	株式会社ニットー	広島エフエム放送株式会社	広島ガス株式会社
株式会社広島銀行	広島県	広島県信用組合	広島市	広島市信用組合	広島信用金庫
広島テレビ放送株式会社	広島電鉄株式会社	株式会社広島ホームテレビ	株式会社広島マツダ	株式会社ヒロテック	株式会社福屋
福山瓦斯株式会社	福山通運株式会社	株式会社フジ	株式会社フジタ	マツダ株式会社	マロックス株式会社
株式会社もみじ銀行	株式会社モルテン	リョービ株式会社			

持株比率:エディオン 46.96%、マツダ 16.67%、中国電力 3.42%、広島銀行 2.99%、広島県 2.50%、広島市 2.50% 他

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

過去の実績 (タイトル)

トップチーム

Jリーグディビジョン1 年間優勝1回(2012年)

Jリーグ1stステージ(サントリーシリーズ) 優勝1回(1994年)

ゼロックススーパーカップ 優勝2回(2008・2013年)

Jリーグディビジョン2 年間優勝1回(2008年)

天皇杯 準優勝4回(1995・1996・1999・2007年)

Jリーグヤマザキナビスコカップ 準優勝1回(2010年)

FIFAクラブワールドカップ2012 5位(2012年)

フェアプレー賞高円宮杯2回(2010・2012シーズン)



ユースチーム

Jユースカップ 優勝3回(1995・2003・2006年)

U-18サッカーリーグ チャンピオンシップ(旧高円宮杯) 優勝4回
(2004・2010・2011・2012年)

全日本クラブユース選手権大会 優勝2回(2003・2004年)

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

サンフレッチェ広島の実践

「サッカー事業を通じて、夢と感動を共有し、地域に貢献します」



●直接的に求められるもの	チームの勝利、優勝
●クラブとしての存在意義、究極目的	地域社会への貢献



プロサッカークラブとして、試合に勝つことは応援いただいている地域の皆様から直接的に求められているものですが、クラブは勝利至上主義ではありません

サンフレッチェ広島は試合以外でも、様々な地域貢献活動・社会貢献活動を通じて、将来ある子供たちに“夢”を与え、“活力”と“郷土愛”に満ちた「ひろしま」の繁栄に貢献します

日本一の育成型クラブを目指す

サンフレッチェ広島は、幼稚園児からプロ選手に至るまで、積極的にサッカーの普及・育成活動に取り組んでいます

地域の人々、サポーターに愛され、誇りに感じてもらえる選手を育てると共に、地域と一体になってサッカーの普及を行っており、年間約1万人を対象に

Jリーグアカデミー クリニック 定期スクール 少年サッカー大会

などを実施し、地域スポーツ振興に貢献しています

“普及” → “発掘” → “育成” → “強化” と、各カテゴリーで成果を挙げ、市民・県民に親しまれ、愛される『日本一の育成型クラブ』

を目指しています



選手育成の実績

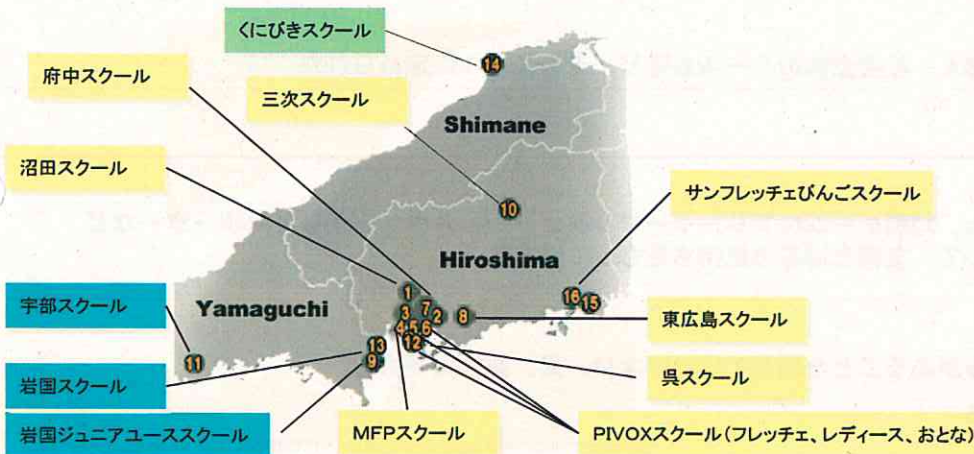
育成型クラブとしての実績、数多くのトップ選手を輩出

サンフレッチェ広島ユースは、これまで数多くのトップ選手（57名）を輩出し、日本トップクラスの実績を誇ります

また、大切な人間形成の場としても環境を整備し、個々に応じた育成を行っています

サンフレッチェ広島ユースは高校年代の最高峰の大会である、高円宮杯チャンピオンシップで、3連覇を達成するなど成功を収めています

また、サンフレッチェジュニアユース出身者が皆実高校や観音高校へ進学し、広島県のサッカー競技レベルの向上に一役買っています。皆実高校が2009年の全国高校サッカー選手権で優勝した際には、登録選手25名中12名がサンフレッチェのジュニアユース出身者でした



トップレベルの指導者も輩出

■広島出身(マツダ・サンフレッチェ)のJリーグクラブ監督

氏名	監督歴
松本育夫	川崎フロンターレ (1999年) サガン鳥栖 (2004~2006年、2010年)
小林伸二	大分トリニータ (2001~2003年) セレッソ大阪 (2004年~2006年) モンテディオ山形 (2008~2011年) 徳島ヴォルティス (2012年~)
木村孝洋	サンフレッチェ広島 (2002年) FC岐阜 (2011年)
高橋真一郎	東京ヴェルディ (2012年)
望月一頼	サンフレッチェ広島 (2006年)
上野展裕	アルビレックス新潟 (2012年)
影山雅永	ファジアーノ岡山 (2010年~)
風間八宏	川崎フロンターレ (2012年~)
高木琢也	横浜FC (2006~2007年) 東京ヴェルディ (2009年) ロアッソ熊本 (2010~2012年) Vファーレン長崎 (2013年~)
松田浩	ヴィッセル神戸 (2002年、2006年~2008年) アビスパ福岡 (2003~2006年) 栃木SC (2009年~)
森保一	サンフレッチェ広島 (2012年~)

サンフレッチェ広島の行動規範 ①

本規範にのっとった行動を通じて、愛するサッカーの価値を高め、そのサッカーに関わる自分自身の人生を豊かなものとし、他のスポーツに取り組む仲間とも力を合わせ平和で健全な社会を築いていくよう努力する。

1. 最善の努力

どんな状況でもチームのために、勝利のために、最後までひたむきに、全力を尽くして自分の役割を果たす

2. フェアプレー

競技規則を熟知するとともに、フェアプレーの精神を理解し、ピッチの内外を問わず、あらゆる状況において、フェアですがすがしい行動を心がける

3. ルールの尊重

サッカーのルールは言うまでも無く、社会全体のルールも守り、そのルールに定められた精神に従って行動する

4. 相手の尊重

チームメイトやコーチはもちろん、対戦チームのプレーヤーやレフェリー、スタッフそしてサポーターなどサッカーに関わる全ての人に対して、友情と尊敬の気持ちをもって接する

5. 勝敗の受容

勝っても、その一方で敗者の痛みがあることを忘れてはいけない。又、負けた場合も、敗戦を誇りある態度で受け入れる

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

サンフレッチェ広島の行動規範 ②

6. 仲間の拡大

サッカーを通じて、仲間やサポーターを増やすことに努める

7. 環境の美化

サッカーの環境をより良いものにするため、常に身の回りの整理整頓、清掃に努める

8. 責任ある行動

サッカー選手として自己管理に努めるほか、それ以前に社会の一員であることを自覚し、責任ある態度と行動をとる

9. 健全な経済感覚

あらゆる面で節度ある健全な金銭感覚のもとに行動する

10. 社会悪との戦い

薬物の乱用や暴力、犯罪、差別などスポーツの健全な発展を脅かす社会悪に対して、断固として戦う

11. 感謝と喜び

サッカーに関わるすべての人々に対し、感謝の気持ちを持ってプレーする

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

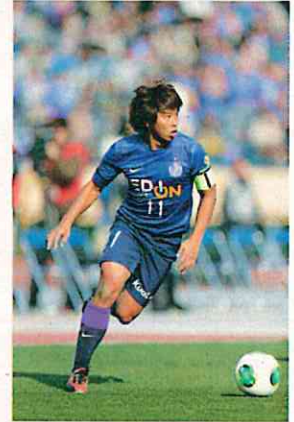
サンフレッチェ広島を目指すプレースタイル

サンフレッチェ広島は、プロ意識を持ち自立した個人の力と、強固にまとまった組織の力を発揮し「アグレッシブで攻撃的な魅力あるサッカー」を展開する

1.フェアですがすがしいプレー

どんな状況でも、すがすがしいプレー・態度を心がける。いかなる時も、以下の事は行わない

- ① レフェリーに対する抗議や暴言
- ② 相手選手の乱暴な行為や挑発行為に対する報復行為
- ③ 相手選手の背後から足を蹴る、引っかける等の悪質なプレー



2.ひたむきな姿勢

- ① 向上心を持ち、常に高いレベルを目指してプレーする
- ② 常に100%の力を出し切り、決してギブアップしない

3.常にゴールへ向かう姿勢

- ① ボールを持ったら、まず相手ゴールを目指す(ダイレクト・プレーの意識)
- ② ボールを取られたら、できるだけ早く奪い返す
- ③ 失点してもすぐに取り返す、得点しても攻撃の手を緩めない

Copyright © 2013 SANFRECCHE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

サンフレッチェ広島で望まれる選手像

1.自立した選手

- ① サッカー中心の節度ある生活をし、日頃から心身を鍛錬しておく
- ② 自分の意見を持ち、人の話を聞ける、コミュニケーションがとれる

2.クリエイティブな選手

- ① 状況に応じて、素早く最良の判断をくだしプレーする

3.フォア・ザ・チームの精神を持つ選手

- ① 規律を重んじ、フォアザチームの精神を忘れない
- ② 自分のプレーを客観的に分析し、チーム戦術、自分の役割を全うする
- ③ いつ、どんな状況でも、まずチームの目的・スケジュールを優先させる



4.地域の人々・サポーターに愛され、誇りに感じてもらえる選手

- ① いかなる時も、サポーターに対する感謝の念を忘れない
- ② ボランティア活動を通じて、地域・社会に貢献する

Copyright © 2013 SANFRECCHE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

サンフレッチェ広島のプレー上で ベースとなる要素



Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

地域との関わり①「小学校訪問」

子どもたちの夢を育み、健全育成に寄与することを目的とし、
県内の小学校を訪問しています

選手やコーチも童心に帰って、グラウンドで一緒に体を動かしたり、給食を食べます
2006年から活動を開始し、これまでに広島近郊の小学校を172校を訪問しました



活動報告（平成25年7月現在）

第1回	平成18年5月	広島市17校
第2回	平成19年1月	広島市18校
第3回	平成19年7月	広島市14校
第4回	平成20年1月	広島市14校
第5回	平成20年5月	広島市6校、他3校
第6回	平成21年1月	広島市8校、他3校
第7回	平成21年6月	広島市7校、他3校
第8回	平成22年2月	広島市7校、他3校
第9回	平成22年6月	広島市6校、他3校
第10回	平成23年1月	広島市6校、他4校
第11回	平成23年6月	広島市7校、他3校
第12回	平成24年1月	広島市8校、他3校
第13回	平成24年7月	広島市7校、他4校
第14回	平成25年1月	広島市8校、他3校
第15回	平成25年6月	広島市4校、他3校

広島市内	137校
広島市外	35校
合計	172校

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

地域との関わり②「様々な活動の支援・協力」

試合会場の場内外にて、献血、人権擁護、オレンジリボンキャンペーン、ピンクリボンキャンペーン等の社会貢献活動に積極的に協力しています



献血協力への呼びかけ



オレンジリボンキャンペーン



ピンクリボンキャンペーン



人権擁護活動



JICA (国際協力機構) 中国



東日本大震災 風評被害防止啓発活動

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

地域との関わり③「フレンドリータウン」

ホームゲーム当日、スタジアム正面「おまつり広場」で地域の物産ブースを展開しています
来場者に広島県内の名産品に触れていただくことで地域の活性化を図ります



安芸高田市



呉市



福山市



岩国市



北広島町

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

地域との関わり④「クラブスタッフの講演会・セミナー等への講師派遣」

日頃より、「育成」「人間教育」「指導方法」「組織・マネジメント」「トレーニング」「発育発達」「子どもとの接し方」など、様々なテーマで経験豊富なクラブスタッフの講師派遣依頼が、教育機関・行政機関・団体から寄せられており、地域貢献活動の一環として多くの要請にお応えしています

主な講師

山出久男普及部長

塩崎浩作スクールマスター

森山佳郎コーチ

沢田謙太郎ジュニアユース監督



Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

地域との関わり⑤「PRサポートショップ」

広島県内の飲食店・小売店を対象にサンフレッチェ広島の紫の幟やポスターの掲出、ポケット日程表の設置にご協力をいただいています
広島の街全体が紫の幟やポスターでサンフレッチェカラーに染まり、地域と共に歩んでいくことが、私たちの願いです



登録件数：638件（2013年6月末現在）

デオデオ店	186店
中国新聞販売所	324店
フレスタ	300店
広島銀行	166店
広島信用金庫	80店
呉信用金庫	60店
合計	890店

合計 県内1,754ヶ所

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

地域との関わり⑥「トップス広島」 「広島三大プロ」の一員として地域貢献

TOPSひろしま



「スポーツ王国ひろしま」の実現と地域の活性化に貢献するために、日本のトップレベルの選手や団体によるスポーツの普及、指導、育成に関する事業を行い、スポーツを通じた社会貢献に寄与することを目的とした団体です

スポーツの指導、普及事業を中心に、教育機関の行うスポーツ振興事業への協力、地域イベント・スポーツ大会などへの参加協力・運営支援などを行っています

加盟団体

サンフレッチェ広島、JTサンダース、ワクナガレオリック、広島メイプルレッズ、広島ガスバドミントン部、NTT西日本広島ソフトテニスクラブ、中国電力陸上競技部、コカ・コーラウエストレッドスパークス、広島東洋カーブ

P3 HIROSHIMA(ピー・スリー・ヒロシマ)



豊かなスポーツ・文化の醸成に寄与し、地域社会に貢献したいと願う広島交響楽団・サンフレッチェ広島・広島東洋カーブは、広島が誇る3大プロとして“PRIDE(誇り)・PASSION(情熱)・PROSPECTS(期待)”の3つのPの旗印のもとに、広島の元気の創出・地域活性化を図ることを目的とし、「誇り・情熱・期待」を感じていただけるようなコラボレーション活動を継続的に展開しています

活動の柱

- 1 P3招待事業 … 広島県民・市民に3大プロを体験していただく事業
- 2 P3小学生夏休み体験事業 … 小学生の夏休み自由研究として3大プロを体験していただく事業
- 3 P3小学校訪問授業 … 小学校の体育の時間、音楽の時間に3大プロが訪問する事業
- 4 P3社会慈善事業への協力 … 社会慈善事業に3大プロが協力する事業
- 5 その他 … イベントへの参加など

Copyright © 2013 SANFRECCHE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

20周年を飾るJ1リーグ初優勝

2012シーズンは、最終節を残し、クラブ史上初となる悲願のJ1リーグ優勝を達成しました 総得点、総失点ともにリーグ2位で、攻守ともに安定した戦いを続けたことが成果となって現れました

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	サンフレッチェ広島	67	34	19	7	8	63	34	+29
2	ベガルタ仙台	57	34	15	12	7	59	43	+16
3	浦和レッズ	55	34	15	10	9	47	42	+5
4	横浜F・マリノス	53	34	13	14	7	44	33	+11
5	サガン鳥栖	53	34	15	8	11	48	39	+9
6	柏レイソル	52	34	15	7	12	57	52	+5
7	名古屋グランパス	52	34	15	7	12	46	47	-1
8	川崎フロンターレ	50	34	14	8	12	51	50	+1
9	清水エスパルス	49	34	14	7	13	39	40	-1
10	FC東京	48	34	14	6	14	47	44	+3
11	鹿島アントラーズ	46	34	12	10	12	50	43	+7
12	ジュビロ磐田	46	34	13	7	14	57	53	+4
13	大宮アルディージャ	44	34	11	11	12	38	45	-7
14	セレッソ大阪	42	34	11	9	14	47	53	-6
15	アルビレックス新潟	40	34	10	10	14	29	34	-5
16	ヴィッセル神戸	39	34	11	6	17	41	50	-9
17	ガンバ大阪	38	34	9	11	14	67	65	+2
18	コンサドーレ札幌	14	34	4	2	28	25	88	-63



Copyright © 2013 SANFRECCHE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

Jリーグアウォーズ フェアプレー賞高円宮杯受賞

J1リーグにおける反則ポイントの年間合計数が34ポイント以下と反則ポイント数最少チームとなり、2010年以来、2年ぶり2回目のフェアプレー賞高円宮杯を受賞した
優勝チームが高円宮杯を受賞するのは史上初、成績だけでなくフェアプレー精神の尊重という面でも高い評価を得た
 佐藤寿人選手は、2007年以来2回目のフェアプレー個人賞を受賞した



サンフレッチェ広島は、
2年ぶり2回目の高円宮杯を受賞



佐藤寿人選手は、5年ぶり2回目のフェアプレー個人賞を受賞

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

広島の元気の源

「夢・感動・希望・目標・笑顔・誇り」

クラブ創立20周年の節目の年
2012年に悲願のJリーグ初優勝

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

2012年12月16日 J1優勝パレード



Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

2012年12月16日 原爆慰霊碑に献花



Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

2012年12月16日 J1優勝報告会



平和都市広島の代表として世界へ FIFAクラブワールドカップ初出場 世界5位



サンフレッチェ広島 関連記事

アジアチャンピオンズリーグ試合前日、
対戦チームであるアデレードユナイテッドが
原爆慰霊碑に献花を行った
サッカーを通じて平和と友好を深めた記事が
掲載された

出典：中国新聞 2010年3月30日

交差点

花ささげ平和の歴史学を
何を感得して居たのか。広島がACI
して、田嶋の歴史学を感得して居た。
（田嶋 大朗）

広島	浦項
○	○
△	△
○	△

山崎 高柳 山岸
服部 森崎和 森崎浩
横竹 中島 森越
SANFRECCE 西川 広島



原爆慰霊碑に花をささげるビドマー監督（手前）
たちアデレード関係者

読者投稿の欄に、サンフレッチェ広島の活躍で元気がもらえるという記事が掲載された

出典：中国新聞 2009年4月24日

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

サンフレッチェ広島 関連記事

J1 J2の計40クラブのホームゲーム
観戦者調査の結果、
広島は地域貢献の評価で1位であった。

出典：中国新聞 2013年2月8日

サンフレ「地域貢献」1位

Jリーグは7日、2012年のJ1、J2計40クラブのホームゲーム観戦者調査の結果を発表した。広島は地域貢献の評価で1位だった。

地域貢献は四つの項目の数値を総合。広島は「クラブはそれぞれのホームタウンで重要な役割を果たしている」の項目で、「大いに当てはまる」「当てはまる」と回答した人が

J40クラブ ホーム観戦者調査

が90・9%。「選手は社会の模範として重要な役割を果たしている」でも80・7%と、高い評価を得た。

このほか、年間15試合以上観戦する常連サポーターの割合は40・0%。年間観客動員が30万人以上の6クラブの中で最も低く、新規のサポーターが増えたことを示した。

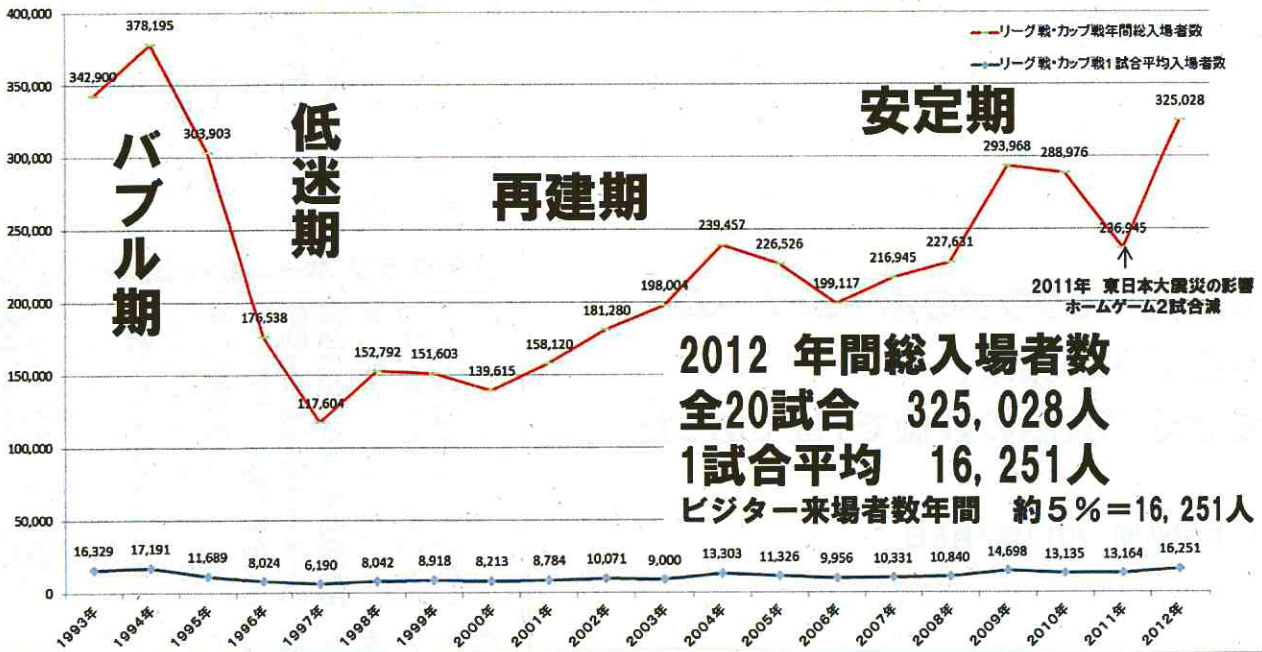
筑波大の仲沢真准教授は「成績が飛躍してメディア露出が増えたのが、この結果につながったのでは。今後は新しいサポーターをつなぎとめることが大事」と分析していた。

調査は昨年4～10月、各競技場で11歳以上の男女1万7435人を対象に年齢、性別を含む46項目をアンケート。広島ビッグアーチでは8月25日のFC東京戦で実施された。

（五反田康彦）

サンフレッチェ広島 事業の現況

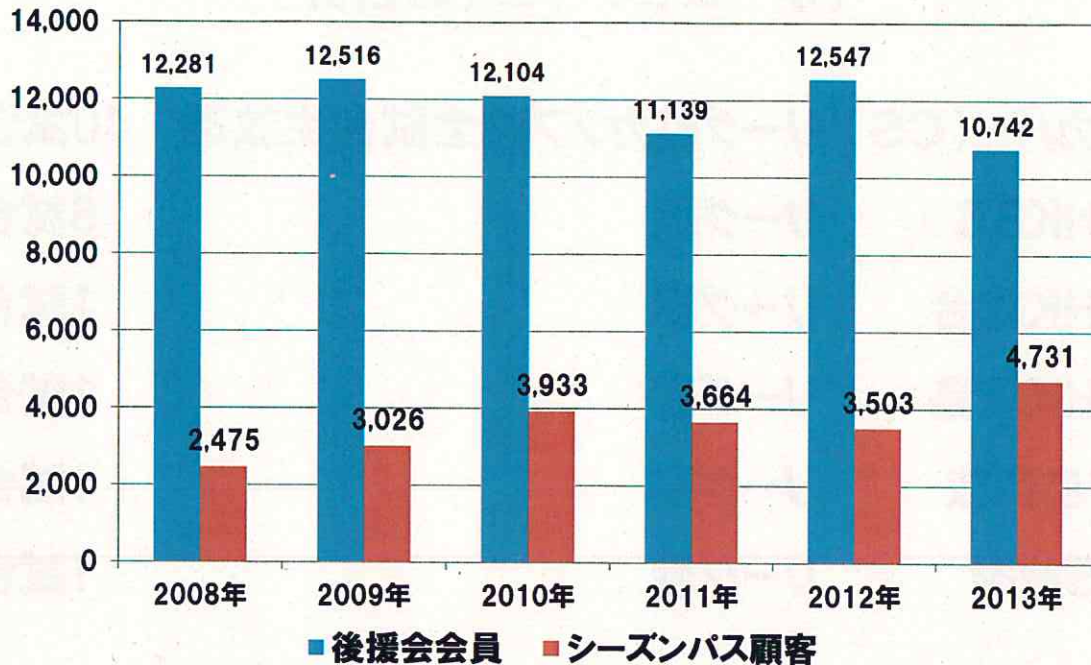
サンフレッチェ広島 年間入場者数の推移



	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
カテゴリ	J1	J1	J1	J1	J1	J1	J1	J1	J1	J1	J2	J1	J1	J1	J1	J2	J1	J1	J1	J1
リーグ戦年間順位	5	2	10	14	12	10	8	11	9	15	2	12	7	10	16	1	4	7	7	1
リーグ戦試合数	18	22	26	15	16	17	15	15	15	15	22	15	17	17	17	21	17	17	17	17
リーグ戦総入場者数	299,586	378,195	303,903	127,040	104,534	141,769	140,650	132,978	148,741	164,111	198,004	222,005	212,960	190,066	194,199	227,631	267,239	247,550	224,447	301,249
リーグ戦1試合平均入場者数	16,644	17,191	11,689	8,469	6,533	8,339	9,377	8,865	9,916	10,941	9,000	14,800	12,527	11,180	11,423	10,840	15,723	14,562	13,203	17,721
カップ戦試合数	3	—	—	7	3	2	2	2	3	3	—	3	3	3	4	—	3	5	1	3
カップ戦総入場者数	43,314	—	—	49,498	13,070	11,023	10,953	6,637	9,379	17,169	—	17,452	13,566	9,051	22,746	—	26,669	41,426	12,498	23,779
カップ戦1試合平均入場者数	14,438	—	—	7,071	4,357	5,512	5,477	3,319	3,128	5,723	—	5,817	4,522	3,017	5,687	—	8,890	8,288	12,498	7,926
リーグ戦・カップ戦年間総入場者数	342,900	378,195	303,903	176,538	117,604	152,792	151,603	139,615	158,120	181,280	198,004	239,457	226,526	216,945	227,631	293,968	288,976	236,945	325,028	
リーグ戦・カップ戦1試合平均入場者数	16,329	17,191	11,689	8,024	6,190	8,042	8,918	8,213	8,784	10,071	9,000	13,303	11,326	9,956	10,331	10,840	14,698	13,135	13,164	16,251

後援会会員数とシーズンパス顧客の推移

単位：件数



後援会会員（人数）は2万人を超えており、Jリーグの中でもトップ5圏と推定一方でシーズンパスは4,731名と、Jリーグではトップ10圏外

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

順位と年間入場者数 直近4年間の比較（J1リーグ戦）

単位：(順位)人

順位	2009年		2010年		2011年(東日本大震災影響あり)		2012年	
	クラブ名	年間総入場者数	クラブ名	年間総入場者数	クラブ名	年間総入場者数	クラブ名	年間総入場者数
1位	鹿島(5)	367,486	名古屋(6)	339,638	柏(13)	202,593	広島(6)	301,249
2位	川崎(6)	320,394	G大阪(10)	283,111	名古屋(5)	284,590	仙台(9)	282,200
3位	G大阪(9)	301,105	C大阪(11)	255,439	G大阪(6)	278,981	浦和(1)	622,772
4位	広島(11)	267,299	鹿島(5)	356,430	仙台(8)	266,144	横浜(4)	390,078
5位	F東京(3)	440,032	川崎(7)	315,550	横浜(3)	357,647	鳥栖(14)	203,844
6位	浦和(1)	751,565	清水(8)	306,022	鹿島(6)	274,655	柏(11)	234,064
7位	清水(8)	304,900	広島(12)	247,550	広島(11)	224,447	名古屋(7)	291,632
J1 1試合平均		18,985	J1 1試合平均	18,428	J1 1試合平均	15,797	J1 1試合平均	17,566
広島1試合平均		15,723	広島1試合平均	14,562	広島1試合平均	13,203	広島1試合平均	17,721

ここ4年間、成績は上位で安定（4年連続で賞金圏内の7位以内は、広島のみ）したが、2012年の優勝効果を除き、1試合平均入場者数がJ1平均よりも下回っているのが現状

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

2012年のテレビ放映による露出 (ホーム&アウェイの合計)

(1)スカパー(CS)	リーグ戦カップ戦全試合生放送	40試合
(2)NHKBS	リーグ戦	6試合
(3)NHK総合	リーグ戦	1試合
(4)NHK広島	リーグ戦	1試合
(5)広島民放	リーグ戦	1試合
(6)BS他局	リーグ戦	1試合

サンフレッチェ広島の試合は、全国放送・ローカル放送ともに放映されています

Copyright © 2013 SANFRECCHE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

設立以来、赤字基調の経営

(単位:億円)

	全21期累計	1年間平均
入場料収入	91.4	4.3
広告料収入	213.6	10.1
売上高	450.4	21.4
選手スタッフ人件費	337.2	16.5
営業利益	-16.5	-0.7
純利益	-18.1	-0.8

過去3回の『財務リストラ』実施

- (1) 1999年 増資4億円
- (2) 2007年 増資5億円
- (3) 2012年 減資20億円、増資2億円

Copyright © 2013 SANFRECCHE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

	16期	17期	18期	19期	20期	21期
年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012
入場料収入	438,271	427,655	545,209	560,379	495,439	591,312
ファンクラブ会費収入	0	0	0	0	0	0
広告料収入	1,193,083	1,190,559	1,364,162	1,231,897	1,459,210	1,425,333
Jリーグ分配金収入	286,243	138,139	231,454	211,766	238,330	243,532
商品化権利・出場料	41,751	32,665	34,629	41,916	39,243	39,580
指掌料・スクール収入	75,676	82,625	81,882	85,377	104,277	96,872
経損金収入	277,884	70,251	73,143	9,048	2,095	8,521
グッズ売上高	184,592	211,462	226,762	251,462	231,580	335,831
その他営業収入	128,823	134,480	170,428	183,546	115,317	443,975
法人後援会収入	0	0	0	0	0	0
売上高	2,626,330	2,287,839	2,728,734	2,605,391	2,676,491	3,176,005
選手スタッフ人件費	987,028	1,003,861	1,101,130	1,151,166	1,121,576	1,225,518
移居金・支度金	150,279	83,927	105,248	102,411	72,719	56,904
試合運営費	268,510	256,721	258,532	319,464	252,517	292,615
チーム運営費	334,593	316,593	355,411	311,239	322,896	311,407
減価償却費	14,602	13,819	13,991	10,785	14,916	13,793
下部組織人件費	98,215	121,422	107,142	118,837	129,357	130,784
期首商品増加高	16,826	22,064	35,901	31,098	19,738	21,722
商品仕入高	115,551	155,356	141,982	153,139	140,450	188,963
期末商品増加高	22,064	35,901	31,098	31,098	19,738	21,722
売上原価	1,963,540	1,937,867	2,088,240	2,178,401	2,052,447	2,225,306
広告宣伝費	131,838	161,687	189,499	198,479	185,941	189,028
販売費	49,070	47,296	58,010	64,010	47,917	79,595
人件費	266,660	259,064	247,282	257,911	239,647	266,281
設備費	34,245	32,811	30,606	31,490	29,535	28,528
減価償却費	5,364	5,895	4,716	4,732	8,849	18,873
事業税	0	0	0	0	0	0
その他販費	116,329	90,409	102,516	118,725	106,706	141,351
販売費及び一般管理費	603,506	597,162	619,629	675,368	618,595	723,656
営業利益	59,283	-247,190	20,866	-248,378	5,448	227,044
受取利息配当金	633	1,191	402	224	208	218
保険金収入	967	1,229	1,644	396	495	593
その他	8,022	52,732	9,481	2,398	3,168	10,321
営業外収入	9,622	55,152	11,527	3,017	3,871	11,132
支払利息	12,280	2,235	4,413	10,568	11,311	9,476
その他	1,680	23,316	13,149	3,561	3,841	3,898
営業外費用	13,960	25,581	16,562	14,129	15,152	13,374
経常利益	54,945	-247,190	15,831	-259,490	-5,833	-5,833
特別利益	0	0	0	0	0	0
特別損失	0	0	1,880	3,896	137	334
税引前当期利益	54,945	-247,190	13,951	-263,386	-5,970	-224,468
法人税及び住民税	1,770	1,797	1,797	1,797	1,796	1,797
当期純利益	53,175	-248,987	12,153	-265,083	-7,766	-226,265
累積損益	-1,556,730	-1,776,146	-1,763,993	-2,029,095	-2,036,851	222,671
純資産	553,320	333,904	348,057	80,965	73,198	495,071

カテゴリ	J1	J2	J1	J1	J1	J1
順位	16位	1位	4位	7位	7位	1位
リーグH試合数	18	21	17	17	17	17
リーグ年間入場者数	217,361	227,631	287,299	247,550	224,447	301,249
リーグ平均入場者数	12,076	10,840	15,723	14,582	13,203	17,721
カップ戦H試合数	4	0	3	5	1	3
カップ戦年間入場者数	22,746	0	26,669	41,426	12,498	23,779
カップ戦平均入場者数	5,687	-	8,890	8,285	12,498	7,926
年間ホーム試合数	22	21	20	22	18	20
年間入場者数	240,107	227,631	293,968	288,976	236,945	325,028
H試合平均入場者数	10,914	10,840	14,698	13,135	13,164	16,251

	58	58	58	58	58	63
株主数	58	58	58	58	58	63
株式数	48800	48800	48800	48800	48800	80000
増資(出資)金額	500,050	0	0	0	0	199,200
減資金額	0	0	0	0	0	-2,088,950
資本金	2,110,050	2,110,050	2,110,050	2,110,050	2,110,050	220,301

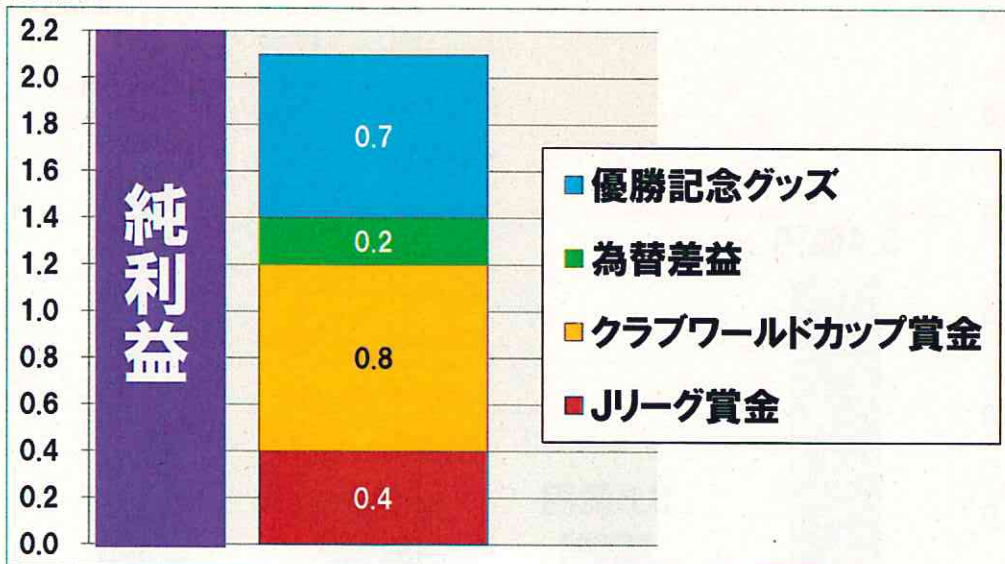
直近6年間の特記事項

- ◆2007年 2回目のJ2降格
- ◆2007年 5億円増資(エディオン)
- ◆2008年 1年でのJ1復帰
- ◆2009年以降、4年連続で賞金圏内
(4位・7位・7位・1位)広島のみ
- ◆2010年 ACL初出場・ナビスコ準優勝
- ◆2012年 減資・増資
- ◆2012年 創立20周年で、J1初優勝

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

優勝効果の大きかった2012年度決算

単位: 億円

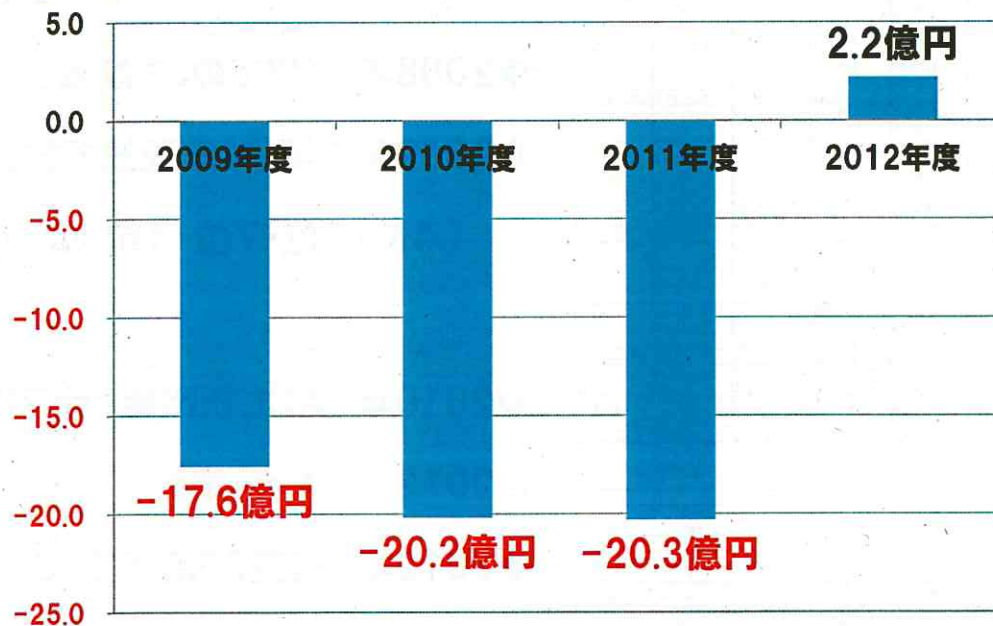


2012年度は、約2.2億円の黒字を計上したが、これはJリーグ優勝賞金、クラブワールドカップ5位による賞金、優勝記念グッズといった副次的な要因が大きく、優勝効果を除くとかろうじて黒字

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

累積損失の解消

単位：億円

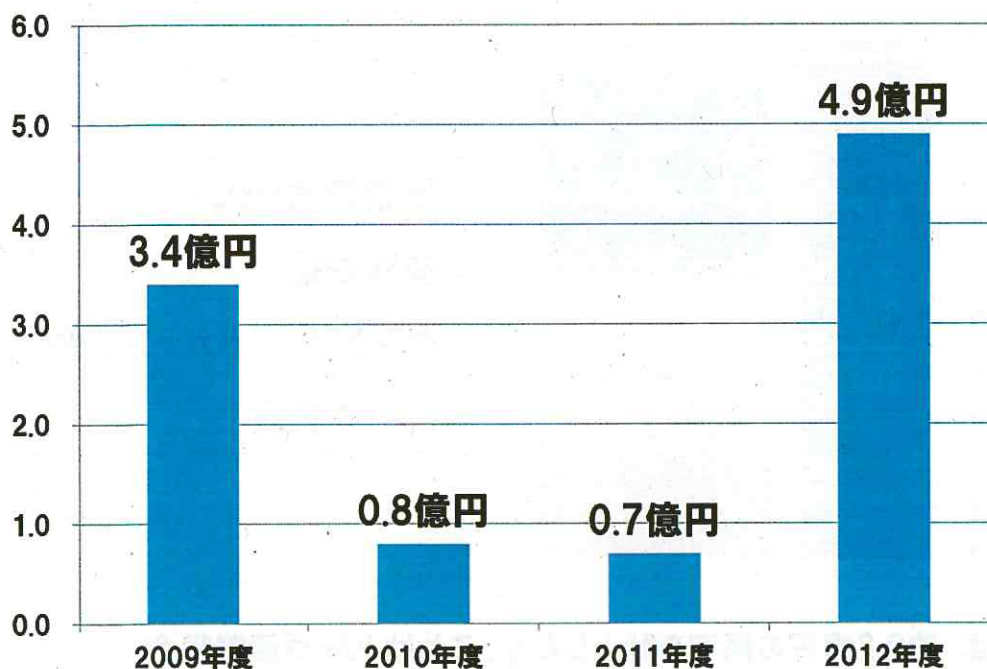


プラスが累積利益、マイナスが累積損失を示す

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

回復した純資産

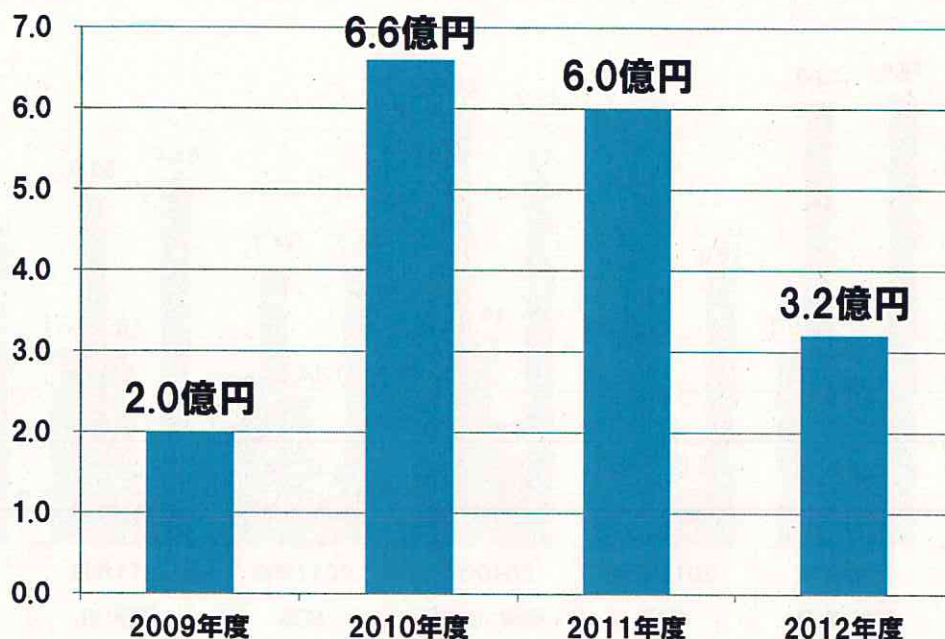
単位：億円



Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

借入金残高 再び減少へ

単位：億円



Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

営業収入に占める入場料収入・広告料収入の割合 営業支出に占めるチーム人件費の割合 (直近4年間平均)

入場料収入割合	
入場料収入 ÷ 総収入 (%)	
1 浦和	37.7%
2 仙台	34.7%
3 新潟	31.9%
4 山形	26.3%
5 横浜FM	23.5%
6 F東京	21.3%
7 名古屋	19.4%
8 神戸	18.9%
9 広島	18.8%
10 清水	18.8%
11 C大阪	17.6%
12 鹿島	17.3%
13 川崎	17.2%
14 G大阪	15.4%
15 柏	15.4%
16 磐田	13.2%
17 大宮	10.6%

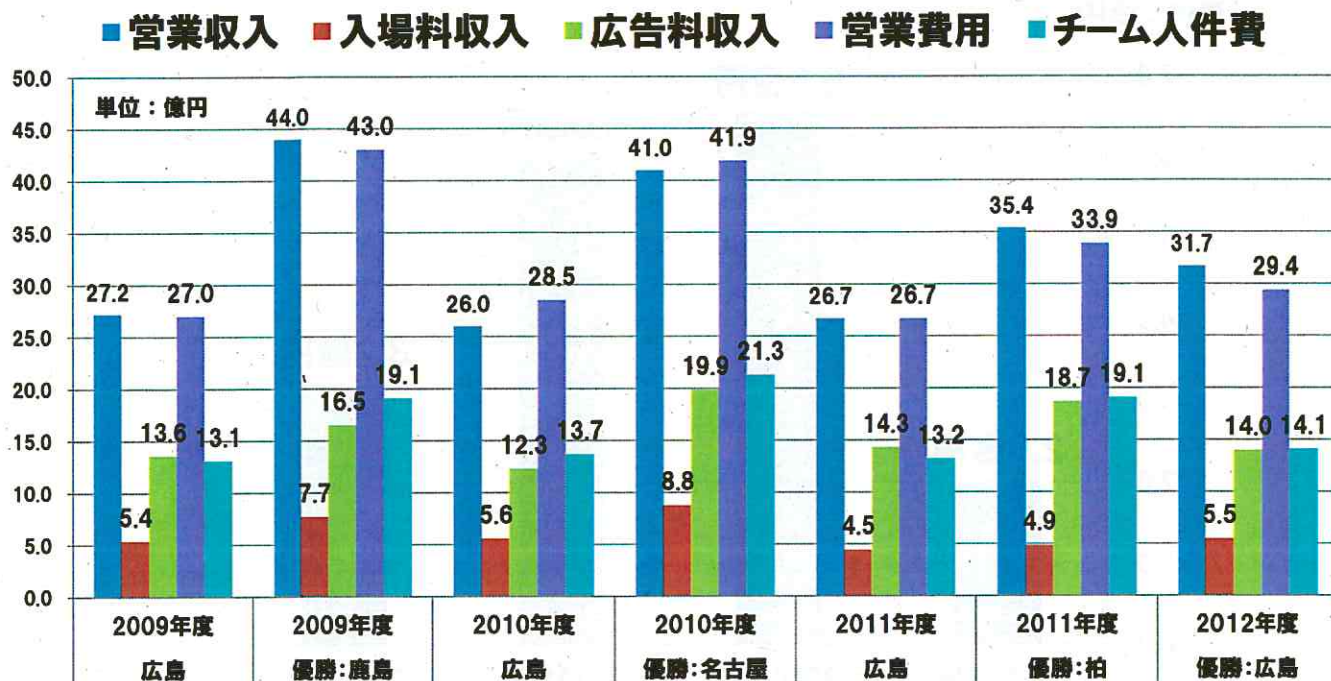
広告料収入割合	
広告料収入 ÷ 総収入 (%)	
1 大宮	71.8%
2 柏	56.4%
3 磐田	54.1%
4 川崎	50.2%
5 名古屋	49.6%
6 C大阪	49.0%
7 広島	48.6%
8 G大阪	48.5%
9 鹿島	40.6%
10 浦和	39.2%
11 新潟	38.3%
12 横浜FM	37.1%
13 清水	36.4%
14 F東京	36.3%
15 神戸	32.6%
16 仙台	32.0%
17 山形	18.3%

チーム人件費割合	
チーム人件費比率 (%)	
1 柏	56.2%
2 山形	55.3%
3 G大阪	53.4%
4 大宮	53.2%
5 神戸	51.2%
6 川崎	50.5%
7 名古屋	50.3%
8 広島	48.5%
9 仙台	47.4%
10 鹿島	45.3%
11 C大阪	45.1%
12 磐田	44.9%
13 F東京	44.3%
14 清水	41.0%
15 新潟	38.6%
16 浦和	37.5%
17 横浜FM	35.8%

出典：公益社団法人日本プロサッカーリーグの資料を基に作成

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

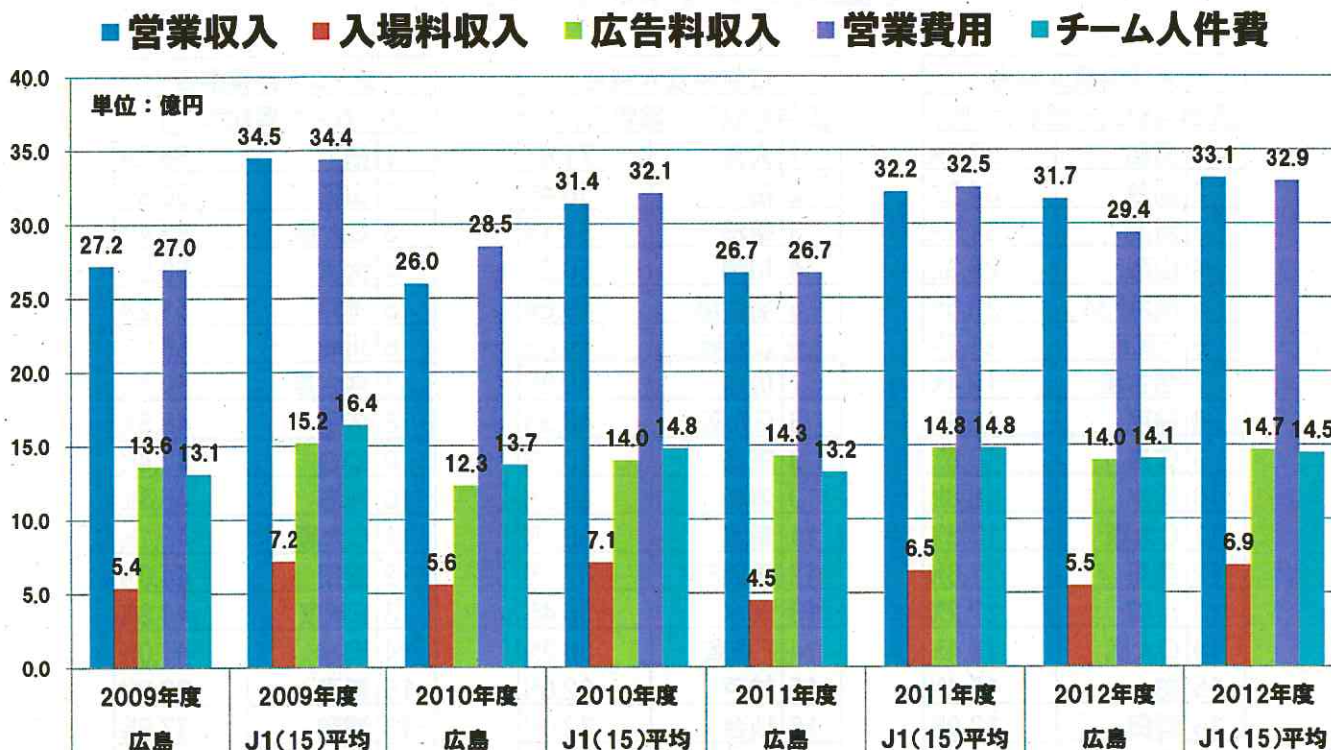
直近4年間の「広島と優勝クラブ」との経営数値比較



出典：公益社団法人日本プロサッカーリーグ資料を元に作成

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

直近4年間の「広島と降格3クラブを除くJ1平均」との経営数値比較

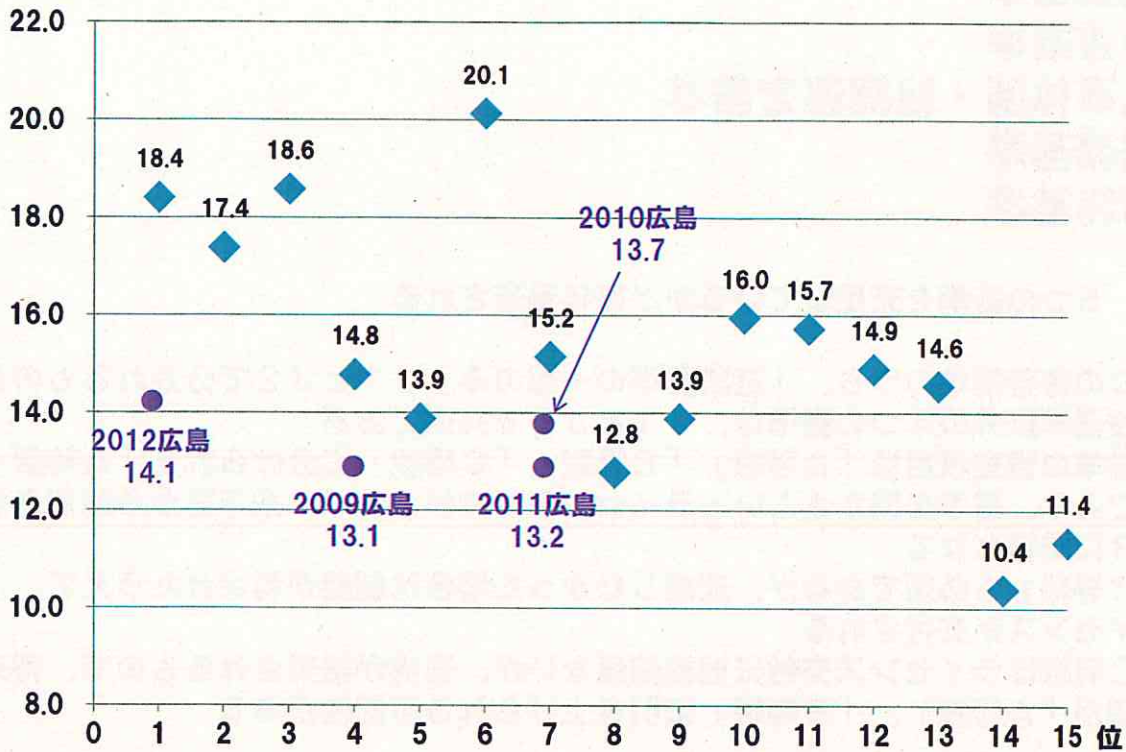


出典：公益社団法人日本プロサッカーリーグ資料を元に作成

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

直近4年間 「降格3クラブを除く」J1平均チーム人件費と順位

単位：億円



出典：公益社団法人日本プロサッカーリーグ資料を元に作成

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

クラブライセンス制度 (2013年度から実施)の目的

- ◆サッカーのあらゆる水準の持続的な向上
- ◆アカデミー選手のトレーニング・医療ケアの充実
- ◆クラブ組織運営体制の強化
 - 設備の整った安全なスタジアムの確保
- ◆クラブの経営安定化
 - 財務能力・信頼性の向上
- ◆シーズンを通じた国内・国際競技会の継続性維持
- ◆競技会における財務上のフェアプレーの監視

出典：Jリーグクラブライセンス事務局資料を元に作成

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

クラブライセンス制度 5つの審査基準

- ◆競技基準
- ◆施設基準
- ◆人事体制・組織運営基準
- ◆法務基準
- ◆財務基準

上記、5つの基準を充足しているかが毎年審査される

- ・5つの審査基準のうち、「施設基準の一部のみ」J1とJ2で分かれるものとし、施設基準以外の4つの基準は、J1とJ2で共通である
- ・各基準の審査項目は「A等級」「B等級」「C等級」に分けられる「A等級」は必須であり、基準を満たさないとライセンスが交付されず、来年度から開催されるJ3に降格となる
- ・「B等級」も必須であるが、達成しなかった場合は制裁が科されたうえで、ライセンスが交付される
- ・「C等級」はライセンス交付に直接関係ないが、達成が推奨されるもので、将来的に等級が「A等級」、「B等級」に引き上げられる可能性がある

出典：Jリーグクラブライセンス事務局資料を元に作成

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

クラブライセンス制度の3つのポイント

- ◆3年連続赤字を計上していないこと
- ◆債務超過でないこと
- ◆スタジアム基準を満たすこと

- ・スタジアムの入場可能人員がリーグの規定（J1は15,000人、J2は10,000人）を上回っていること（A等級）
- ・スタジアムの観客数1,000名あたり、洋式トイレ5台以上、男性用小便器8台以上を備えていること（B等級）
- ・スタジアムに観客席の3分の1以上（B等級）または観客席すべて（C等級）を覆う屋根を備えること
- ・クラブが年間を通じて使用できる天然芝もしくは人工芝のピッチ1面
屋内トレーニング施設・クラブハウス・メディカルルームがあること（A等級）



Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

スタジアムに起因する集客上の課題

(1) 実質収容人数は、最大で36,770人

スタジアム全座席数 42,683	-	見切席数		=	スタジアム実質収容人数 36,770人
		SS席	96		
		SA席	154		
		バック(上段Cレベル)	4,953		
		緩衝エリア	710		
合計	5,913	※昨年11月24日優勝決定試合では、安全上の観点から34,500でチケット発券を止めた			

(2) 臨場感に欠ける

スタンドからピッチまでの距離が遠い(最大30m超)



スタジアムに起因する集客上の課題

(3) ほぼスタンドに屋根がない=天候に集客が左右される

観客席の屋根カバー率 4.8%

※クラブライセンス制度では、観客席の3分の1以上を覆う屋根が必要とされている

事例:2013年開幕戦:浦和レッズ戦

当日の天候:曇り一時雨・雪

入場者予測:34,000人の予測を32,200人へ下方修正

入場者実績:27,911人 (下方修正予測を更に下回る▲4,289人)

参考:2011年18試合+2013年11試合での、天候による1試合平均入場者数

※2012年は、優勝効果があるため除外

※平日・週末の違いは、考慮せず

※2013年は、1週間前からの週間天気予報が雨で、前日もしくは当日に曇りに回復した試合を「雨」で換算した



晴れ 13,312人/試合
雨 11,392人/試合
(晴れと比較し、▲1,920人)

スタジアムに起因する集客上の課題

(4)交通アクセスの困難さ

◆市内中心部から離れた立地にあるため、平日開催の集客が困難である

参考:直近4年間の「週末開催」と「平日開催」の違いによる1試合平均入場者数

週末 15,528人/試合

平日 9,325人/試合 (週末と比較し、▲6,203人)

◆周辺の交通渋滞を引き起こし、近隣住民に迷惑をかける

◆アストラムライン、広島電鉄シャトルバス・路線バスの公共交通機関だけでは、大量輸送に十分でない

◆広域公園前駅から700m、シャトルバス到着場所から400m 上り坂を歩く

◆マイカーでのご来場が多い(40%以上)

◆臨時駐車場の確保が困難、臨時駐車場の場所が遠い

◆浦和戦等のビッグマッチでは、臨時駐車場に入れず諦めて帰られたクレームも

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

スタジアムに起因する集客上の課題

(5)駐車場について

◆「公称5万人」のスタジアムに対し、一般の方が利用できる駐車場は約1,000台にとどまる

◆クラブが近隣の地権者に依頼して借りている「臨時駐車場」は現状、約2,200台が上限

※1台でも多く駐車できるスペースを確保するために、フロントスタッフが定期的に臨時駐車場の草刈り等のメンテナンスを実施しなければいけないのが現状

◆こころエリアまで、約1.5km

◆西風新都エリアまで、約7km

◆クラブが手配したシャトルバスで送迎

◆試合終了後、シャトルバスに乗るためのお客様の待機と待機時間が発生



スタジアムに起因する集客上の課題

2008年ホーム開幕戦におけるスタジアムまでの交通アクセスが課題である記事が掲載された

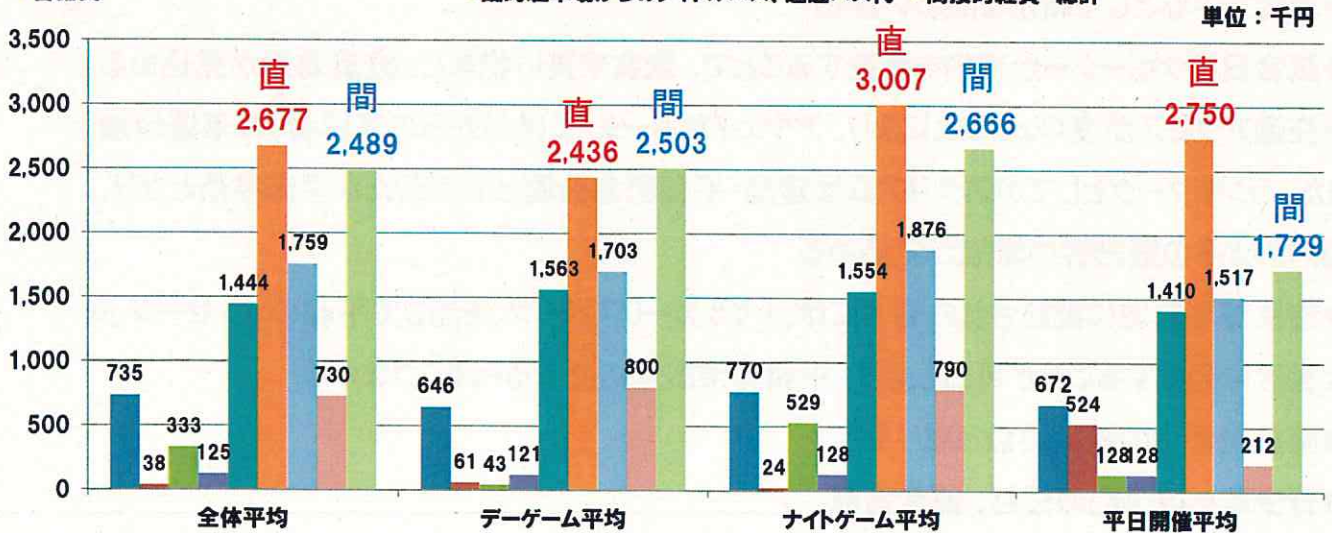
「サンフレッチェ広島の本拠地、広島ビッグアーチで、交通アクセスの課題が再浮上している」

「地元開幕戦は予想より3,000人多い17,000人が観戦バスを待つ行列は解消するまで2時間近くかかり、最大で400mになった」

出典：中国新聞 2008年3月24日

スタジアムに起因する財務上の課題

- スタジアム使用料
- 諸室使用料
- 照明代
- 電光・大型映像使用料
- 広告掲出料
- 直接的経費 総計
- 警備費
- 臨時駐車場からのシャトルバス、送迎バス代
- 間接的経費 総計



「スタジアム使用料」「諸室使用料」「照明代」「電光・大型映像使用料」「広告掲出料」の直接的経費は、約2,677千円/試合
 「警備費」「臨時駐車場からのシャトルバス、送迎バス代」の間接的経費は、約2,489千円/試合

スタジアムに起因する財務上の課題

- ◆大型ビジョン故障に伴うクラブの支出
ビジョンカー約300万円を負担した



◆試合収支の損益分岐点試算表

単位:千円

入場者数	10,000	11,000	12,000	13,000	14,000	15,000	16,000	17,000	18,000	19,000	20,000
前売人数	1,700	2,000	2,500	3,000	4,000	5,000	6,000	6,500	7,000	7,500	8,000
当日人数	800	1,000	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000
年パス、年指、後援会	3,000	3,200	3,400	3,600	3,800	4,000	4,200	4,400	4,600	4,800	5,000
無償	4,500	4,800	4,900	5,100	4,800	4,500	4,200	4,400	4,600	4,800	5,000
前売売上(単価:1,801)	3,062	3,602	4,503	5,403	7,204	9,005	10,806	11,707	12,607	13,508	14,408
当日売上(単価:2,139)	1,711	2,139	2,567	2,781	2,995	3,209	3,422	3,636	3,850	4,064	4,278
グッズ粗利(売上の35%)	700	840	980	1,120	1,260	1,400	1,470	1,610	1,750	1,925	2,100
飲食手数料	600	650	700	750	825	900	1,000	1,075	1,125	1,175	1,200
収入計	6,073	7,231	8,749	10,054	12,284	14,514	16,698	18,028	19,332	20,672	21,986
入場者数変動費用 (賃借、競技場使用料 シャトルバス等)	11,000	11,300	11,600	11,900	12,200	12,500	12,800	13,100	13,400	13,700	14,000
グッズ販売手数料	400	480	560	640	720	800	840	920	1,000	1,100	1,200
入場料加算金	700	770	840	910	980	1,050	1,120	1,190	1,260	1,330	1,400
入場料納付金	300	330	360	390	420	450	480	510	540	570	600
チケット販売手数料	180	220	260	300	340	380	420	460	500	540	550
費用計	12,580	13,100	13,620	14,140	14,660	15,180	15,660	16,180	16,700	17,240	17,750
収支(収入-費用)	-6,507	-5,869	-4,871	-4,086	-2,376	-667	1,038	1,848	2,632	3,432	4,236

注) 2008年度実績を基にした試算(ナイトゲーム9試合、内平日2試合)

Copyright © 2013 SANFRECCHE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

サンフレッチェ広島が地域にもたらす効果

市中心部にスタジアムができる場合は…

- ◆広島市中心部の活性化
- ◆若者を中心とした新たな賑わい創出
- ◆試合日にサポーターが市内を回遊することで、飲食や買い物など、経済効果が見込める
- ◆交通アクセスが良くなることにより、アウェイサポーター(県外からの来場者)の来場増加
また、ランドマークとしてのスタジアムは宮島・平和記念公園と並ぶ新たな観光名所となり、国内外からの観光客の増加が見込める
- ◆市民球場跡地に建設された場合には、「サッカー(スポーツ)を通じて平和のメッセージ」を全世界に発信することが可能となり、平和都市広島の更なるPRにつながる
- ◆緊急災害時の防災拠点と成りえる
- ◆青少年への「夢」の付与、健全育成
- ◆スポーツ文化の活性化
- ◆スタジアムの複合機能による新たな需要創出
- ◆西日本の「都市間競争」へのアドバンテージ

ホームスタジアムから、5km圏内人口 平均32.9万人

1	川崎	等々力	116.9万人	21	北九州	本城	19.0万人
2	C大阪	長居	105.7万人	22	群馬	正田スタ	17.9万人
3	横浜C	ニッパ球	79.5万人	23	熊本	うまスタ	17.3万人
4	東京	味スタ	78.8万人	24	大分	大銀ド	17.0万人
5	横浜FM	日産ス	70.2万人	25	山梨	中銀スタ	15.7万人
6	名古屋	瑞穂陸	65.4万人	26	清水	アイスタ	15.5万人
7	京都	西京極	65.0万人	27	磐田	ヤマハ	13.0万人
8	G大阪	万博	62.9万人	28	長崎	長崎県立	12.3万人
9	大宮	NACK5	59.8万人	29	水戸	Ksスタ	11.3万人
10	柏	柏	49.8万人	30	鳥栖	ベアスタ	10.9万人
10	福岡	レベスタ	49.8万人	31	愛媛	ニンスタ	8.9万人
12	札幌	札幌ド	46.8万人	32	鳥取	とリスタ	8.2万人
13	仙台	ユアスタ	33.5万人	33	広島	Eスタ	8.0万人
14	神戸	ノエスタ	33.0万人	34	松本	松本	7.7万人
15	湘南	BMWス	32.2万人	35	富山	富山	7.7万人
16	新潟	東北電ス	26.5万人	36	山形	NDスタ	6.4万人
17	千葉	フクアリ	26.0万人	37	徳島	鳴門大塚	5.4万人
18	岡山	カンスタ	25.6万人	38	鹿島	カシマ	5.0万人
19	岐阜	長良川	23.5万人	39	栃木	栃木グ	3.3万人
20	浦和	埼玉ス	20.3万人				

出典：2010年国勢調査に基づく、公益社団法人日本プロサッカーリーグ クラブライセンス事務局調べ

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

中心市街地（主要駅）から ホームスタジアムまでの直線距離 J1開催スタジアム 平均4.4km内、1/3以上が、3.0km以内

1	鳥栖	ベアスタ	鳥栖駅	0.2km	15	京都	西京極	京都駅	4.3km
2	C大阪	長居	長居駅	0.4km	16	清水	アシスタ	清水駅	4.4km
3	大宮	NACK5	大宮駅	1.4km	17	神戸	ノエスタ	三宮駅	4.5km
3	名古屋	豊田ス	豊田駅	1.4km	18	横浜FM	日産ス	横浜駅	5.2km
5	柏	柏	柏駅	1.6km	19	甲府	中銀ス	甲府駅	5.3km
6	横浜C	ニッパ球	横浜駅	1.8km	20	大分	大銀ド	大分駅	6.0km
7	湘南	BMWス	平塚駅	1.9km	21	仙台	ユアスタ	仙台駅	6.6km
8	G大阪	万博	茨木駅	2.1km	22	川崎	等々力	川崎駅	7.2km
9	東京	味スタ	調布市市街地	2.2km	23	浦和	埼玉ス	浦和駅	7.5km
10	磐田	ヤマハ	磐田駅	2.8km	24	札幌	札幌ド	札幌駅	7.5km
11	新潟	東北電ス	新潟駅	3.3km	25	名古屋	瑞穂陸	名古屋駅	7.6km
12	鹿島	カシマ	鹿嶋市市街地	3.4km	26	広島	Eスタ	広島駅	8.8km
13	福岡	レベスタ	博多駅	3.7km	27	山形	NDスタ	山形駅	10.9km
14	千葉	フクアリ	千葉駅	4.1km					

出典：公益社団法人日本プロサッカーリーグ クラブライセンス事務局調べ

Copyright © 2013 SANFRECCE HIROSHIMA FOOTBALL CLUB All rights Reserved.

サンフレッチェ広島は、これまでも、そしてこれからも、
「サッカー事業を通じて、夢と感動を共有し、地域に貢献する」
クラブ理念を貫き、地域の皆さまに愛されるクラブづくり、
地域に根差したクラブづくりに邁進します
そして、サッカーを通じて地域活性化に貢献し、
平和都市広島を全世界にアピールしていきます
旧広島市民球場跡地への新サッカースタジアムの建設は
広島経済の活性化とサンフレッチェ広島の経営基盤の安定に
資するものと考えています

■ Jクラブ経営情報開示

Jクラブは自治体(ホームタウン)、企業、ファン・サポーターなど、多くの方の支援を受けて経営される社会的な存在です。クラブは経営の透明性を高め、クラブを支えていただく皆様に経営状況をご理解いただく必要があります。

Jリーグは、1999会計年度からクラブの経営状況をとりまとめ、ホームページ等を通じてクラブの経営情報をみなさまに公表しています。

Jリーグがクラブの経営情報開示を積極的に実施していることについては、メディアや経済界をはじめ、各方面からスポーツ界における先進的な取り組みとして高い評価をいただけてきました。

経営情報の開示は、クラブの経営の透明性の向上に寄与するのみならず、Jリーグ入会を目指す地域やクラブにとって、クラブの経営基盤を整備するうえでの指標として役立てられています。今後もJリーグは、社会に役立ち、社会に開かれた存在として、経営情報の開示を通じ、皆様と課題等を共有していきたいと考えています。

■ 情報開示の進展

Jクラブの経営情報開示がスタートした1999会計年度から2004会計年度までは、クラブの売上高、経常利益、純資産といった各指標について、それぞれ最高値、最低値、平均値、規模分布などを公表し、リーグ全体のおよその市場規模を理解する一助としてきました。

2005会計年度分(2006年9月公表)では、上記の各指標をクラブ別に開示した資料を公表し、クラブごとの売上高等が示されるようになりました。

2006会計年度分(2007年9月公表)からは、各クラブの科目ごとの金額を一覧にした経営情報を取りまとめて公表いたしました。これにより、クラブごとに、収入や費用の内訳が開示されることとなり、さらに詳細な情報がみなさまに示されることとなりました。

2012年2月にJリーグクラブライセンス制度が施行されたこととともない、Jクラブは財務基準を充足するため、より安定した経営が求められるようになり、経営管理の重要性が高まりました。

その流れを受けて、2011会計年度分(2012年8月公表)からは、開示する科目をさらに細かく、分かりやすく整備いたしました。トップチームだけでなく、アカデミーに関する活動の規模も開示されるようになり、Jクラブが地域に根差した活動を実践していることが、経営数値としても把握できるようになりました。

■ 2011年度開示資料の特徴

1. 情報としての有用性の向上: クラブ間の「情報の横展開」を可能にし、クラブの努力目標(ターゲット)を設定しやすくした

(1)より明確な科目体系に変更

- ・クラブの収益構造がより理解できる科目構成とした
- ・「アカデミー・育成」に関する収入、費用を項目として独立させ、分かりやすく(育成はJリーグ百年構想を支える一つの柱であるというスタンスの明確化でもある)

(2)クラブが置かれている立ち位置を把握しやすく

- ・自クラブが他クラブに対して優れている点、努力が必要な点に分かる
- ・他クラブとの比較を通じて、自クラブのベンチマーク(数値目標)が作りやすくなる

2. クラブ経営の透明性の向上: 開示科目数の増加

クラブライセンス制度により、全クラブで「公認会計士または監査法人による監査」が義務化され、決算の信頼性が高まったこともあり、財務状況の積極的開示により、サッカー界に対する透明性と信頼性を高めた

■ 2011年度の主なトピック

(1)2010年度から1クラブ増(鳥取が新入会)。J1が18クラブ、J2が20クラブの計38クラブ構成となっている。

(2)2011年3月11日に発生した東日本大震災により、以下のような影響があった

- ・約1ヶ月間のリーグ戦中断
- ・中断期間分(3月・4月)の試合を、梅雨時期・夏期(6月・7月)に移動した。

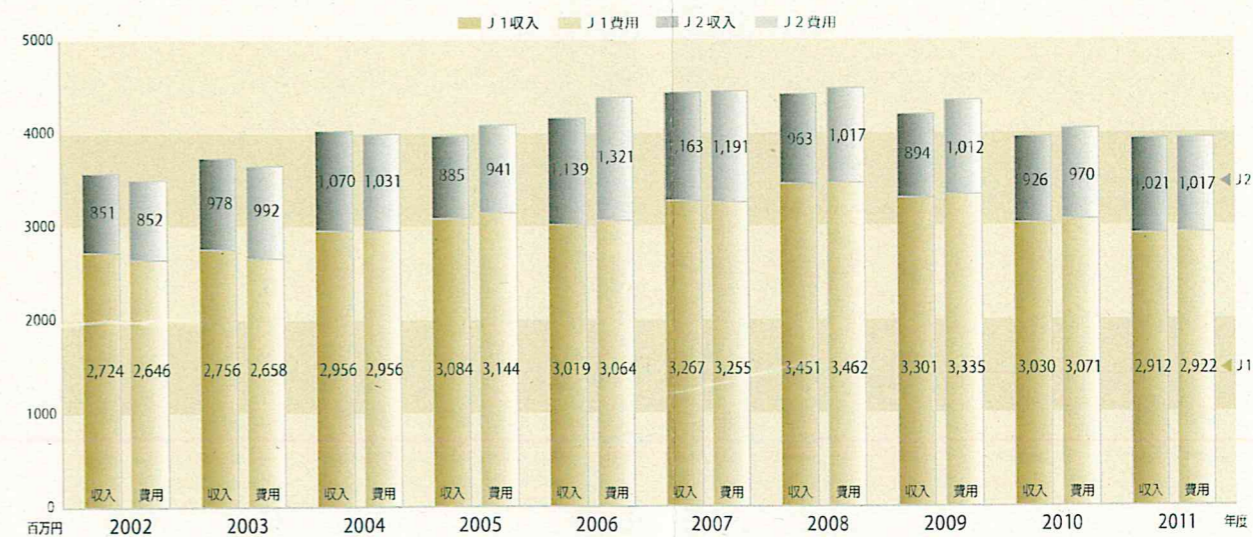
これにより、土・日開催だった試合が平日開催に移動した試合があった(J1 9試合、J2 40試合)

・リーグヤマザキナビスコカップの大会方式を「予選リーグ+8チームによる決勝トーナメント」から「トーナメント方式」に変更したことにより、全体で24試合減少した。

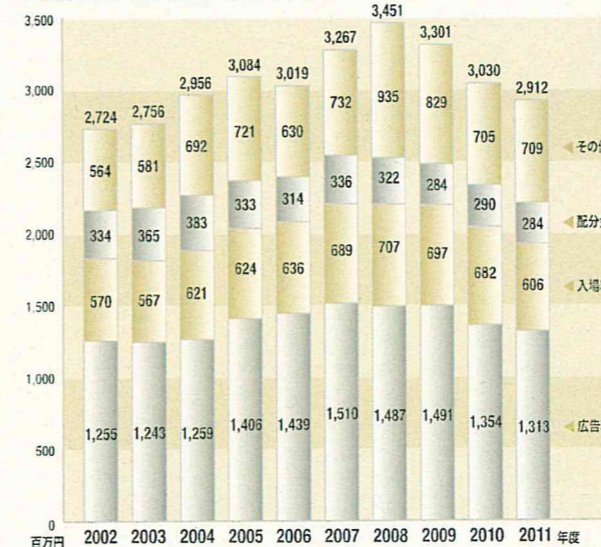
(3)平均入場者が前年比で減少したことにより、入場者数が減少した。特に入場料収入の金額が高いクラブに前年比減収が多くみられ、全体の金額を押し下げる結果となった。

(4)一方でチャリティマッチ(2011年3月29日)の開催や、積極的な震災復興支援などにより、サッカーの持つ「力」が社会的に評価され、広告料収入総額に大きな影響は見られなかった。

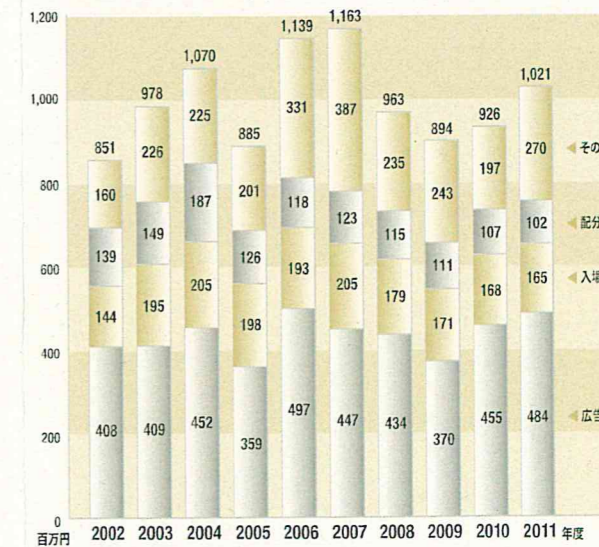
■ 営業収入・営業費用(クラブ平均)の推移



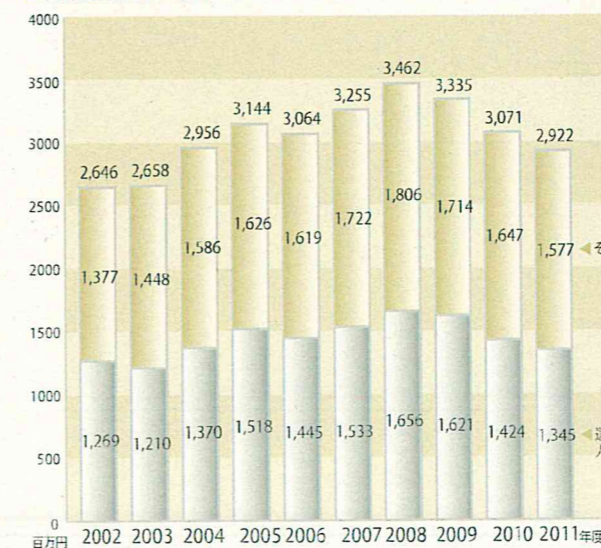
■ 営業収入内訳の推移(J1クラブ平均)



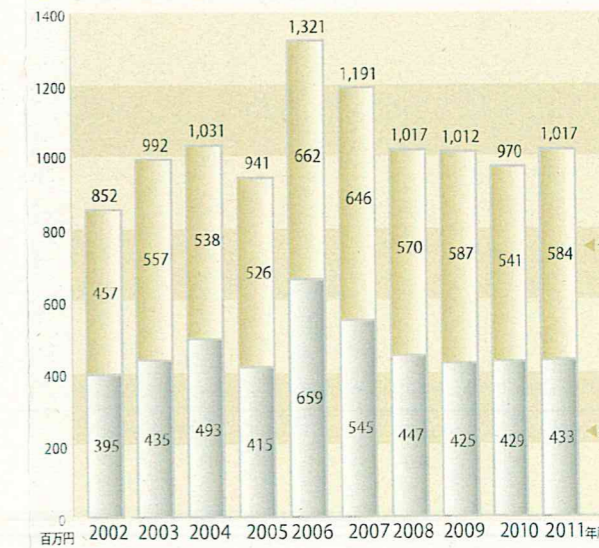
■ 営業収入内訳の推移(J2クラブ平均)



■ 営業費用内訳の推移(J1クラブ平均)



■ 営業費用内訳の推移(J2クラブ平均)



2010年度(平成22年度)Jクラブ個別情報開示資料

(単位:百万円)

クラブ名	J1																			J1総額	J1平均	
	仙台	山形	鹿島	浦和	大宮	F東京	川崎F	横浜FM	湘南	新潟	清水	磐田	名古屋	京都	G大阪	C大阪	神戸	広島				
決算期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2010年12月期	2011年1月期	2011年3月期	2011年1月期	2010年12月期	2011年1月期	2011年1月期	2010年12月期	2011年1月期	2011年1月期			
■経営成績																						
営業収入	2,041	1,229	4,466	5,625	3,308	3,671	3,540	3,565	1,288	2,216	3,486	3,151	4,103	2,311	3,346	2,554	2,035	2,605	54,540	3,030		
(広告料収入)	611	228	1,561	2,256	2,286	1,372	1,856	1,414	430	843	1,274	1,793	1,998	1,484	1,734	1,282	710	1,231	24,363	1,354		
(入場料収入)	790	349	747	2,249	375	779	603	932	360	770	744	408	880	348	553	428	401	560	12,276	682		
(リーグ配分金)	233	232	480	279	220	284	298	251	209	224	304	339	468	220	375	290	210	295	5,211	290		
(その他)	407	420	1,678	841	427	1,236	783	968	289	379	1,164	611	757	259	684	554	714	519	12,690	705		
営業費用	1,863	1,302	4,449	5,898	3,290	3,274	3,493	3,905	1,342	2,341	3,567	2,901	4,198	2,418	3,380	2,528	2,275	2,853	55,275	3,071		
(事業費)	1,593	1,122	3,816	5,217	2,802	2,437	2,831	2,962	1,041	1,850	2,984	2,308	3,677	2,030	2,626	1,938	1,810	2,385	45,429	2,524		
※選手・チームスタッフ人件費(注)	858	787	2,004	2,282	1,850	1,370	1,743	1,374	646	910	1,498	1,254	2,133	1,308	1,773	1,301	1,167	1,372	25,630	1,424		
(一般管理費)	270	180	633	681	488	837	662	943	301	491	583	593	521	386	754	590	465	468	9,846	547		
営業利益	178	▲73	17	▲273	18	397	47	▲340	▲54	▲125	▲81	250	▲96	▲105	▲34	26	▲240	▲248	▲736	▲41		
経常利益	193	▲73	33	▲259	0	393	47	▲339	▲53	5	▲79	263	▲153	▲250	11	24	▲54	▲259	▲550	▲31		
当期純利益	192	▲73	14	▲260	▲1	361	7	▲341	▲53	4	▲80	209	▲162	▲251	11	3	▲53	▲265	▲738	▲41		
■財政状態																						
総資産	1,152	191	2,561	1,450	441	1,349	1,039	719	354	897	962	948	797	1,269	1,037	724	913	977	17,780	988		
総負債	570	215	760	1,135	430	382	501	1,182	307	587	477	612	378	1,497	854	554	1,774	896	13,111	728		
純資産(山形は正味財産)	582	▲23	1,801	315	10	967	538	▲462	47	309	485	336	418	▲228	182	169	▲861	80	4,665	259		
資本金(山形は基本財産)	453	0	1,570	160	100	1,005	349	30	574	712	550	679	400	3,605	10	315	98	2,110	12,720	707		
繰越利益剰余金	128	▲23	83	155	▲329	▲37	158	▲499	▲732	▲403	▲64	▲342	18	▲3,833	172	▲145	▲1,520	▲2,029	▲9,242	▲513		

クラブ名	J2																			J2総額	J2平均	J1-J2総額	J1-J2平均	
	札幌	水戸	栃木	草津	千葉	柏	東京V	横浜FC	甲府	富山	岐阜	岡山	徳島	愛媛	福岡	北九州	鳥栖	熊本	大分					
決算期	2010年12月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年3月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2010年12月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年2月期	2011年1月期	2011年1月期					
■経営成績																								
営業収入	1,132	366	661	512	2,306	2,743	718	948	1,067	573	519	695	854	472	938	495	816	668	1,108	17,591	926	72,131	1,949	
(広告料収入)	440	91	327	216	1,373	1,998	279	574	499	324	188	277	538	162	377	117	194	296	372	8,642	455	33,005	892	
(入場料収入)	305	62	101	91	454	291	121	144	297	52	77	124	70	50	206	111	155	85	388	3,184	168	15,460	418	
(リーグ配分金)	107	117	98	104	114	117	104	98	117	107	98	101	99	100	105	136	74	123	107	2,026	107	7,237	196	
(その他)	280	96	136	101	365	337	214	132	154	90	156	193	147	160	250	131	393	164	241	3,740	197	16,430	444	
営業費用	1,366	380	656	571	2,622	2,698	1,081	947	1,056	593	505	727	799	495	925	493	829	665	1,018	18,426	970	73,701	1,992	
(事業費)	1,119	269	500	420	2,205	2,209	892	785	763	433	298	511	578	337	693	380	659	507	822	14,380	757	59,809	1,616	
※選手・チームスタッフ人件費(注)	500	152	278	187	1,349	1,485	347	545	473	199	186	282	375	216	401	169	290	251	473	8,158	429	33,788	913	
(一般管理費)	247	111	156	151	417	489	189	162	293	160	207	216	221	158	232	113	170	158	196	4,046	213	13,892	375	
営業利益	▲234	▲14	5	▲59	▲316	45	▲363	1	11	▲20	14	▲32	55	▲23	13	2	▲14	3	90	▲836	▲44	▲1,572	▲42	
経常利益	▲116	▲13	2	▲45	▲326	32	▲364	9	5	▲20	3	▲36	62	▲22	34	1	4	5	112	▲673	▲35	▲1,223	▲33	
当期純利益	▲116	▲16	1	▲56	▲312	28	▲363	5	0	▲16	1	▲36	23	▲22	33	1	2	4	115	▲724	▲38	▲1,462	▲40	
■財政状態																								
総資産	840	82	113	104	1,483	1,819	488	489	516	156	81	232	574	218	440	89	240	145	216	8,325	438	26,105	706	
総負債	937	117	51	181	1,224	999	486	477	305	33	177	193	140	28	353	65	181	183	1,268	7,398	389	20,509	554	
純資産	▲97	▲35	62	▲76	259	819	2	12	210	123	▲95	38	433	189	87	23	59	▲38	▲1,052	927	49	5,592	151	
資本金	795	52	243	185	490	100	242	343	367	96	130	76	409	208	125	137	454	211	468	5,131	270	17,851	482	
繰越利益剰余金	▲892	▲162	▲223	▲290	▲620	▲212	▲443	▲446	▲156	▲1	▲353	▲52	24	▲18	▲234	▲113	▲701	▲249	▲1,589	▲6,730	▲354	▲15,972	▲432	

(注)含まれる項目

- ・監督・コーチ及び他のチームスタッフ人件費(アカデミーを含む)
- ・選手人件費(報酬の他、支度金、移籍金償却費を含む)